

ポータブルX線撮影装置を用いた牛のComputed Radiography

画像化因子が画質に与える影響

岸本海織 住谷 峻 李 奇子 清水純一郎 山川和宏

滄木孝弘 羽田真悟 松本高太郎 石井三都夫

佐々木直樹 猪熊 壽 山田一孝[†]

帯広畜産大学臨床獣医学研究部門 (〒080-8555 帯広市稲田町西2線11)

(2009年10月8日受付・2010年2月16日受理)

要 約

牛臨床におけるComputed Radiography(CR)の有用性を確立するため、管球-カセット間距離およびImaging Plate(IP)の読み取り時間が画質に与える影響について検討した。管球-カセット間距離は画質の視覚的スコア(粒状性、鮮鋭性)に影響しなかった。IPの読み取り時間は画質の鮮鋭性と相関しなかったが、粒状性と相関が認められた。しかし読み取り時間が12時間以内の場合には問題にならない程度であると考えられた。管球-カセット間距離を再現よく保つことが難しく、IP読み取り時間のばらつきが想定される牛の臨床画像診断においてCRは有用なX線撮影システムであると考えられた。— キーワード：牛, Computed Radiography(CR), フェーディング, Imaging Plate(IP), ポータブルX線発生装置。

----- 日獣会誌 63, 431~434 (2010)

[†] 連絡責任者：山田一孝 (帯広畜産大学臨床獣医学研究部門)

〒080-8555 帯広市稲田町西2線11 ☎0155-49-5395 FAX0155-49-5398 E-mail : kyamada@obihiro.ac.jp